

ワクチンとアレルギー（2）

子宮頸がんワクチンは、接種後、心臓に持病のある子が亡くなったり、スポーツの得意な子が筋痛症を発症し、寝たきり状態になったり、注射直後、倒れるなど、多くの副反応が問題になりました。当診にもワクチン希望者が来られましたが、オーリングテストでは約9割の方が不相当と判断されました。アレルギーを持っておられる方がほとんどなので、このような結果が出るのかも知れません。ワクチンで6割程の頸癌を予防することは出来ても100%ではありません。ワクチンが出来ても出来なくても子宮がん検診を定期的に行うことが大切です。ワクチンの成分は次のようです。

サーバリックス 水酸化アルミニウム、PH調節剤、リン酸水素ナトリウム、ウシの乳由来成分、蛋白質ウィルス様粒子

また、多くの方が、今年は打とうか、打つまいかと迷われるのがインフルエンザワクチンです。持病がある方や、抵抗力の弱っている方は、重症化を防ぐために受けられることをお勧めしています。当診では子供の脳に蓄積するのを防ぐため、チメロサルフリーのワクチンを使っています。

インフルエンザ 鶏卵、(ホルマリン)、(フェノキシエタノール)、(チメロサル)、
() は、メーカーにより様々。

その他のワクチンは、どうなのでしょう。

エイムゲン・ 乳糖、D-ソルビトール、L-グルタミン酸ナトリウム、
(A型肝炎) L-アルギニン塩酸塩、ポリソルベート80、
ビームゲン 水酸化アルミニウム、ホルマリン、チメロサル、
(B型肝炎)

ワクチンの間隔ですが、生ワクチンを接種した日から別のワクチンを行うまで27日以上、不活化ワクチンを接種した日から別のワクチンを行うまで、6日以上おいておこないます。

生ワクチン： MR、おたふくかぜ、水痘、BCG、

不活化ワクチン： アクトヒブ、プレベナー13、4種混合（テトラビック）
サーバリックス、日本脳炎、インフルエンザ、エイムゲン、
ビームゲン、

水痘ワクチンは、今年10月より定期接種になりました。1歳以上3歳未満で2回、3か月以上（6-12か月）あけて、3歳から5歳未満は1回（2015年3月末まで）、5歳以上は私費で行います。

最近、同時接種が勧められていますが、オーリングテストにより診てみますと、月齢が小さい程、アレルギーの強い程、複数のワクチン同時接種は副反応が強いようです。安全のためには個別接種が勧めますが、数が多いため忘れないようにしなければなりません。アレルギーの強い場合は、ワクチンについてもご相談ください。